

**技術名称：補強布不要型 高靱性環境対応型ウレタン塗膜防水工法
「GO-JIN工法」**

1. 審査証明対象技術

1.1 審査証明依頼者

田島ルーフィング株式会社
代表取締役 社長 田島 国雄
東京都千代田区岩本町 3-11-13

1.2 技術の名称

補強布不要型 高靱性環境対応型ウレタン塗膜防水工法
「GO-JIN工法」

1.3 技術の概要

本工法は、国土交通省公共建築工事標準仕様書（建築工事編）平成 28 年版（以下「公共建築工事標準仕様書」という。）ウレタンゴム系塗膜防水 X-2（密着工法）及び日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説」（JASS8 防水工事 2014）（以下「JASS8」という。）ウレタンゴム系高伸長形塗膜防水工法・密着仕様（L-UFS）」に規定する平場（以下「在来平場工法」という。）、公共建築工事標準仕様書 ウレタンゴム系塗膜防水 X-2（密着工法）及び JASS8 ウレタンゴム系高伸長形塗膜防水工法・密着仕様（L-UFS）に規定する立上り部（以下「在来立上り部工法」という。）の性能を有した工法である。

2. 開発の趣旨

ウレタンゴム系塗膜防水密着仕様において、十分な伸び性能と適度な強度（破断抵抗性）を有する、高靱性環境対応型ウレタン塗膜防水材料である GO-JIN を開発し、補強布を必要としない密着仕様を開発した。

本工法における「環境対応型」とは、特定化学物質障害予防規則および有機溶剤中毒予防規則の規制を受けない材料を示す。

3. 開発の目標

- (1) GO-JIN 工法は、高靱性環境対応型ウレタン塗膜防水材料を用いることで在来工法のウレタンゴム系高伸長形塗膜防水工法・密着仕様（補強布あり）と同等の性能を有すること。
- (2) GO-JIN 工法は、高靱性環境対応型ウレタン塗膜防水材料を用いることで在来工法のウレタンゴム系高伸長形塗膜防水工法・密着仕様（補強布あり）の補強布の工程を省略し、施工の省力化が図れること。

4. 審査証明の方法

依頼者より提出された審査証明資料により、本工法の性状を確認することとした。

- (1) 「在来工法のウレタンゴム系高伸長形塗膜防水工法・密着仕様（補強布あり）と同等の性能を有すること」の検討
 - ①塗膜物性の性能確認試験
 - ②本工法と在来工法の性能評価

JASS8 付 5. 「JASS 8 T-501-2014 メンブレン防水層の性能評価試験方法」に基づく試験

 - ・へこみ試験
 - ・耐衝撃試験

- ・耐風試験
 - ・ふくれ試験
 - ・コーナー部安定性試験
 - ・疲労試験
- ③ G O - J I N工法と在来平場部工法の低速ゼロスパン下地亀裂追従性試験
- (2) 「在来工法のウレタンゴム系高伸長形塗膜防水工法・密着仕様（補強布あり）の補強布の工程を省略し、施工の省力化が図れること」の検討
- ・作業工程数の比較

5. 審査証明の前提

本審査証明は、依頼者から提出された資料等には事実に反する記載がなく、依頼者の責任において適正に設計・施工・品質管理等が行われることを前提に、依頼者から提出された資料に基づいて行われたものである。

6. 審査証明の範囲

審査証明は、依頼者より提出された開発の趣旨及び開発の目標に対して、設定された確認方法により確認した範囲とする。なお、個々の工事等の実施過程及び実施結果の適切性は審査証明の範囲に含まれない。

7. 審査証明結果

本技術において、前記の開発の趣旨、開発の目標に照らして審査した結果は、以下のとおりである。

- (1) G O - J I N工法は、高靱性環境対応型ウレタン塗膜防水材料を用いることで在来工法のウレタンゴム系高伸長形塗膜防水工法・密着仕様（補強布あり）と同等の性能を有するものと判断される。
- (2) G O - J I N工法は、高靱性環境対応型ウレタン塗膜防水材料を用いることで在来工法のウレタンゴム系高伸長形塗膜防水工法・密着仕様（補強布あり）の補強布の工程を省略し、施工の省力化が図れると判断される。

8. 留意事項及び付言

- (1) 施工にあたっては、依頼者が作成した施工マニュアルに基づき、所定の膜厚を確保することが必要である。
- (2) 管理者、作業者が本技術の施工マニュアル等について事前に十分に理解するように配慮すること。

9. 審査証明経緯

- (1) 2018年3月15日付けで依頼された本技術について、技術審査を行い、2018年7月17日付けで技術審査を完了した。なお、審査証明の有効期限は、5年間（2023年7月16日まで）とする。